

映画「海難 1890」鑑賞会

(2016年1月12日 於：ベイオール・マジェスティック映画館)

1月12日、イスタンブール市のベイオール区に所在するマジェスティック映画館で、ベイオール・ディルニハット・オズイェーン・アナドル高校の生徒を対象に、日本とトルコの合作映画「海難 1890」の映画鑑賞会が開催されました。

この映画鑑賞会には、来賓として、オスマン・エクシ・ベイオール郡長、ジェミル・サルジュ・ベイオール市教育長等が招かれ、江原総領事が出席しました。冒頭、江原総領事が、生徒達に向けて「この映画は日本とトルコの友好関係の将来を担うあなた達のような若者に最も観て欲しいものです。」等の挨拶の言葉を述べ、続いてエクシ郡長が挨拶と共に映画のあらすじを説明し、鑑賞会が始まりました。

この映画鑑賞会の翌日、同校の教頭先生からは、江原総領事の鑑賞会への出席へのお礼と生徒達のこの映画に関する感想が当館に伝えられました。生徒達の中には、感動の涙を流す者が多かったとのことでした。

※映画を観た生徒達から寄せられた感想は以下の通りです。

ギョルケム・オズデミル（男子）：映画「海難 1890」の予告編をテレビで観てこの映画にずっと行きたいと思っていました。実際観て見ると、予想していたよりおもしろく、過去の出来事を我々若者に正しく伝えてくれる映画だと思いました。日本の総領事が、この行事にご出席いただいたということで、この映画がどれだけ重要なのがわかりました。

ギゼム・タトゥル（女子）：この映画に関しては、いろいろ前評判を聞いていましたが、これほど素晴らしいものだとは思いませんでした。江原日本国総領事にもこの行事に出席いただきとても嬉しかったです。総領事の素敵な人柄に触れ、私は大学で日本語を学ぶことを決めました。

イエシム・バシエル（女子）：この行事を企画し実行された我が校のヤヴズユルマズ校長先生に感謝の言葉を述べたいです。また、この行事にご出席いただいたエクシ・ベイオール郡長とサルジュ・ベイオール市教育長に感謝いたします。そして、我々と共にこの行事にご参加いただいた江原日本国総領事に親愛の気持ちをお伝えします。



生徒達との記念撮影

(左より江原総領事、エクシ郡長、サルジュ教育長、ヤヴズユルマズ校長)



映画の開幕を待つ生徒達